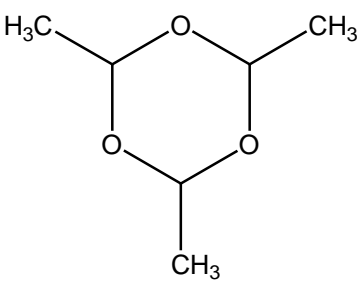


既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成21年10月23日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
2-483	123-63-7	パラアセトアルデヒド	二監相当		1
4-1531	31127-54-5	2,3,4,4-テトラヒドロキシベンゾフェノン	二監相当	三監相当でない	3
5-1037 5-1038	108-80-5	イソシアヌル酸	二監相当でない	三監相当でない	6
3-442	88-73-3	o-クロロニトロベンゼン	二監相当		9
2-163	112-24-3	トリエチレンテトラミン	二監相当		11
3-407	89-63-4	4-クロロ-2-ニトロアニリン		三監相当	13
9-920	101-20-2	3,4,4'-トリクロロジフェニル尿素		三監相当	15
3-2230	108-87-2	メチルシクロヘキサン		三監相当	17
3-2232	111-78-4	1,5-シクロオクタジエン		三監相当	19
2-28	764-13-6	2,5-ジメチルヘキサ-2,4-ジエン		三監相当	21
2-164	4067-16-7	ペンタエチレンヘキサミン		三監相当	23
3-4392	250578-38-2	[3-(2-エチルヘキシルオキシ)プロピルアミン]トリフェニル ホウ素(Ⅲ)	二監相当 【告示済み】	三監相当	25

既存化学物質審査シート

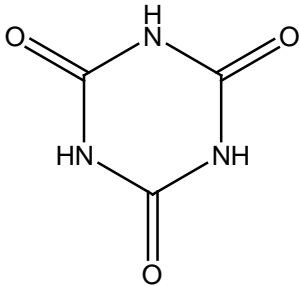
官報公示 整理番号	2-483	CAS No.	123-63-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：パラアセトアルデヒド 分子量：132.16 分子式：C ₆ H ₁₂ O ₃		
			
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 88.5%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2uvrA. 純度換算有り* 5000 μg/plate まで実施した予備試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 5000 μg/plate* +S9mix 群 : 5000 μg/plate* (本試験 II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate* +S9mix 群 : 5000 μg/plate*		
染色体 異常	陽性 D20 値=0.67mg/mL (24 時間処理群 : 構造異常) -S9mix 群及び 24 時間処理群において構造異常の誘発. 純度 88.5%. 溶媒 (注射用水-溶解). CHL/IU. 純度換算有り* 1.3mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.3mg/mL* +S9mix 群 : 1.3mg/mL* 24 時間処理群 : 1.3mg/mL* ※ 被験物質中に 11.2%含まれるアセトアルデヒドが 0.03mg/mL 以上で構造異常を誘発 することが知られていることから、本物質の染色体異常の誘発はアセトアルデヒドに 起因する可能性があるとして試験責任者は考察している。		
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット Cr1 : CD (SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.9%	
	用量	3 用量(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	100 mg/kg/day	

	推定根拠	組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：300 以上♂1000 ♀、門脈域肝細胞空胞化減少：300 以上♂)
	他の毒性	機能検査 (着地開脚幅 ↑：1000♂♀) 自発運動量 ↓：1000♂♀ 相対重量(肝 ↑：1000♀) 組織学的所見(胃-境界縁肥厚：1000♂♀) 回復期：後肢握力 ↓：1000 ♀
	回復性	問題なし
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 100mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当。	
備考		

染色体異常	<p>軽微な陽性 ±S9 mix 群において構造異常の誘発。 純度 99.86%※. (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.50mg/plate(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 (本試験) - S9mix 群 : 0.313mg/mL (細胞毒性のため 0.156mg/mL まで観察) + S9mix 群 : 0.625mg/mL (細胞毒性のため 0.313mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.313mg/mL (細胞毒性のため 0.0391 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.0391mg/mL (確認試験) - S9mix 群 : 0.050mg/mL + S9mix 群 : 0.500mg/mL (細胞毒性のため 0.400mg/mL まで観察) ※ 確認試験に用いた被験物質の純度は 99.91%。 ※ -S9mix 群の 2 用量以上で陽性を示したことから総合的に陽性と判定したが、陽性を示した 2 用量で出現頻度に用量依存性が見られないことから、試験責任者は D20 値の算出は不可能としている。</p>	
反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油
	純度	99.91%
	用量	3 用量(100, 300, 1000 mg/kg/day)
	死亡	1000(♀ : 1/17)
	NOEL	反復投与 : < 100 mg/kg/day 生殖発生 : 100 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与 : 組織学的所見(盲腸-粘膜上皮単細胞壊死・粘膜び慢性過形成 : 100 以上♂♀) 尿検査(尿潜血 : 100 以上♂) 生殖発生 : 体重[生後 4 日] ↓ : 300 以上♀
	他の毒性	反復投与 : 体重 ↓ : 1000♂♀ 血液学的検査(PLT ↑ : 1000♂♀、RBC ↓・Hgb ↓・Hct ↓・MCHC ↓ : 1000♂) 血液生化学的検査(Pi ↑ : 300以上♂) 絶対重量(胸腺 ↓ : 300以上♀) 相対重量(胸腺 ↓ : 300以上♀、肝 ↑ : 1000♂♀) 組織学的所見(肝-小葉辺縁性肝細胞空胞化減少 : 300以上♀ 1000♂、 胸腺-萎縮 : 300以上♀) 回復期 血液学的検査(RET ↑ : 1000♂) 生殖発生 : 体重[生後0日] ↓ : 1000♂♀
	回復性	RBC ↓、Hgb ↓、肝 ↑
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であり染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL 100mg/kg/day 未満であることから、第二種監視化学物質相当。	

藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.50、1.0、2.2、4.6、9.6、20 mg/L 実測濃度 0.12、0.23、1.1、2.3、6.1、15 mg/L (ばく露開始時) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 6.4 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 1.1 mg/L</p> <p>①被験物質は試験条件下で構造類似の変化物を生じるが、被験物質と同様に生長阻害を示すことが推察されたことから、ばく露開始時の実測濃度に基づいて毒性値を算出した。</p>
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 10、18、32、56、100 mg/L 実測濃度 4.4、8.5、16、33、64 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 39 mg/L</p>
ミジンコ 繁殖阻害 試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 (1998) 試験方式：半止水式、毎日換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.70、2.2、7.0、22、70 mg/L 実測濃度 0.36、1.2、3.7、12、— mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 3.7 mg/L</p>
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 10、18、32、56、100 mg/L 実測濃度 3.7、6.1、12、24、52 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 36 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 24 mg/L 群：遊泳異常 (48h 2/10、72h 2/10、96h 3/10)</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hEC50=6.4 mg/L、72hNOEC=1.1 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=39 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=3.7 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=36 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

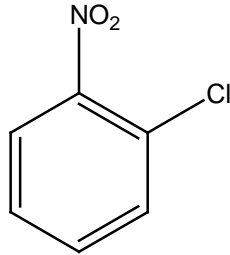
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-1037 5-1038	CAS No.	108-80-5
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質に該当するとは判断されない。 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名 称：イソシアヌル酸 分子量：129.07 分子式：C₃H₃N₃O₃</p> 		
用途	殺虫剤、殺菌剤、添加剤（樹脂用）等 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	1,000～10,000 t 未満 ^{*1}		
外観	白色結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	[OECD/HPV プログラムによる初期評価文書より引用] 陰性 TA98, TA100, TA1535, TA1537. +/-S9mix. 100-1000 μg/plate. (Hayworth et al 1983)		
染色体 異常	陰性 純度 99.5%. 溶媒 (DMSO-懸濁). CHL/IU. 1.3 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群：1.3 mg/mL +S9mix 群：1.3 mg/mL 24 時間処理群：1.3 mg/mL 48 時間処理群：1.3 mg/mL		
反復経口 投与毒性・生殖 発生毒性 併合試験 (ReproTo x)	動物種・系統	ラット Crj：CD (SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方ゴマ油	
	純度	99.8%	
	用量	4 投与群(10, 40, 150, 600 mg/kg)	
	死亡	なし	
NOEL	反復投与毒性：150 mg/kg/day 生殖発生毒性：600 mg/kg/day		

	推定根拠	反復投与毒性： 体重↓：600♂ 一般状態（削瘦：600♀） 血液学的検査（RBC↓・Hb↓・Hct↓：600♂） 血液生化学検査（ γ -GTP↑・BUN↑・CRN↑：600♂） 尿検査（尿中RBC↑・尿中WBC↑：600♂） 相対重量（脾↑：600♂、腎↑・副腎↑：600♂♀） 絶対重量（腎↑：600♂♀） 組織学的所見（腎－尿細管上皮壊死及び過形成・髓質好中球浸潤・尿細管びまん性拡張及び好塩基性化・皮質及び皮髄境界部の鉍質沈着・線維化、膀胱－粘膜上皮過形成、副腎－束状帯細胞空胞化：600♂♀、腎－近位尿細管空胞変性：600♀） 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない
	他の毒性	なし
	回復性	－
人健康影響判定根拠	染色体異常試験は陰性、反復投与毒性試験の NOEL が 150 mg/kg/day であり、また、OECD/HPV プログラムの初期評価によると Ames 試験は陰性であることから第二種監視化学物質相当でない。	
藻類生長阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201（1984） 培養方式： 振とう培養 純度： 99.7% 試験濃度： 設定濃度 63、130、250、500、1000 mg/L 実測濃度 62、130、260、510、1000 mg/L（算術平均値） 助剤： なし 72hEC50（設定値に基づく） = 950 mg/L 72hNOEC（設定値に基づく） = 250 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202（1984） 試験方式： 止水式 純度： 99.7% 試験濃度： 設定濃度 100、180、320、580、1000 mg/L 実測濃度 99、190、330、590、1000 mg/L（算術平均値） 助剤： なし 48hEC50（設定値に基づく） = 1000 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202（1984） 試験方式： 半止水式、週に3回換水 純度： 99.7% 試験濃度： 設定濃度 1.0、3.2、10、32、100 mg/L 実測濃度 0.96、3.1、10、32、100 mg/L（算術平均値） 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく） = 32 mg/L	

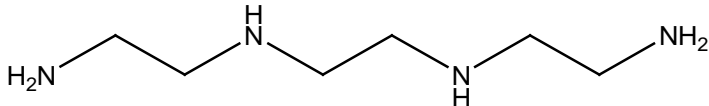
魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 (1992) 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 純度：99.7% 試験濃度：設定濃度 6.3、13、25、50、100 mg/L 実測濃度 6.2、13、25、51、100 mg/L (算術平均値) 助剤：なし</p> <p>試験上限濃度 (100 mg/L) で影響が認められなかった。</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 100 mg/L 群：遊泳不能 (96h 1/10)</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hEC50=950 mg/L、72hNOEC=250 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=1000 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=32 mg/L、魚類急性毒性試験において試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。</p>				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/30	—	(2~4) μ g/L
	底質	S58	0/30	—	(0.025~0.24) μ g/g·dry
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	<p>※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成16年実績) ※2 S59 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-442	CAS No.	88-73-3
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：o-クロロニトロベンゼン 分子量：157.55 分子式：C ₆ H ₄ ClNO ₂		
			
用途	3-442として中間物、合成繊維等 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	10,000～100,000 t 未満 ^{*1}		
外観	淡黄色結晶～黄色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高蓄積性でない		
国際的に評価された既存化学物質の評価			
情報源： OECD/HPV プログラムによる初期評価文書			
反復投与	[マウス、5週、混餌 (50, 500, 5000ppm)] NOAEL：50 ppm* [♂：16 mg/kg/day、♀：24 mg/kg/day] 推定根拠：500ppm [220 mg/kg/day] ♀で体重増加量減少・摂餌量、500ppm [♂：167 mg/kg/day、♀：220 mg/kg/day] ♂♀で Cho↑・肝重量増加・肝小葉中心性肝細胞肥大・肝酵素活性↑ (Bayer 1991, 1993)		
	OECD/HPV プログラムによる評価結果*		
変異原性	Ames 試験：弱い陽性* <ul style="list-style-type: none"> ・陽性：TA98, TA100. +/-S9mix 群. 10-1000 μg/plate. (Haworth et al 1983) ・陽性：TA98, TA100. +/-S9mix 群. 833.3-2073.6 μg/plate. (Bayer 1984) ・陽性：TA98, TA100. +/-S9mix 群. 39.1-10000 μg/plate. (JETOC 1996) 染色体異常試験 (ほ乳類細胞 in vitro)：弱い陽性* <ul style="list-style-type: none"> ・陰性：CHO 細胞. 10-100 μg/mL (-S9mix), 25-250 μg/mL (+S9mix). 8, 12, 21 h. OECD Guide-line 473 (Huntingdon 1988) ・擬陽性：CHO 細胞. -S9mix. 16-160 μg/mL. 14 h. (NTP 1993) ・陰性：CHO 細胞. -S9mix. 47-216 μg/mL. 18.5 h. (NTP 1993) ・陰性：CHO 細胞. +S9mix. 50-500 μg/mL. 14 h. (NTP 1993) ・弱い陽性：CHO 細胞. +S9mix. 101-465, 125-500 μg/mL. 13.6 h. (NTP 1993) 		
	OECD/HPV プログラムによる評価結果*		
人健康影 響判定根 拠	OECD/HPV プログラムの初期評価によると、Ames 試験及び染色体異常試験は弱い陽性であり、反復投与毒性試験における NOAEL は 50 ppm (換算値 16 mg/kg/day) であることから第二種監視化学物質相当。		

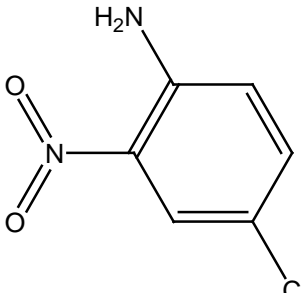
その他の 毒性に関 する情報	<p>情報源： OECD/HPV プログラムによる初期評価文書 がん原性：ラットで多臓器に、マウスで肝に腫瘍誘発 生殖毒性： [ラット、13週、吸入]、[マウス、13週、吸入] 雄生殖器のみ影響 [マウス、強制経口、NTP 継続繁殖法] NOAEL_{fertility}：160 mg/kg/day (母体に一般毒性は見られたが、生殖毒性なし) 発生毒性： [ラット] 高濃度で高い死亡率のため、2濃度のみ評価 NOAEL_{maternal toxicity}：25 mg/kg/day NOAEL_{developmental}：決定できず (骨格異常の同腹子数の増加のため) [ラット] NOAEL_{developmental}：100 mg/kg/day (母動物に毒性なし)</p>				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50 H3	0/95 0/156	— —	(100) μg/L (0.3) μg/L
	底質	H3	0/162	—	(0.023) μg/g-dry
	魚類	H3	0/138	—	(0.0075) μg/g-wet
	大気	H3	3/54	14~45ng/m ³	(7)ng/m ³
	その他				
備考	<p>※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成16年実績) ※2 S50、H4版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-163	CAS No.	112-24-3
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：トリエチレンテトラミン 分子量：146.23 分子式：C ₆ H ₁₈ N ₄		
			
用途	中間物、接着剤、添加剤（紙用）等 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	1,000～10,000 t 未満 ^{*1}		
外観	微黄色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高蓄積性でない		
国際的に評価された既存化学物質の評価			
情報源：OECD/HPV プログラムによる初期評価文書			
反復投与	[マウス、90日間、飲水（120, 600, 3000ppm）] NOAEL=600 ppm* [♂：92 mg/kg/day、♀：99 mg/kg/day] 推定根拠：3000ppm [♂：443 mg/kg/day、♀：483 mg/kg/day] で体重増加↓・腎↓・ 組織学的変化 [肺－間質炎症・脾－髓外造血亢進・肝－門脈周囲脂肪浸潤・腎－細胞 質空胞形成減少] (Greenman D.L. et al. 1996) [ラット、90日間、飲水（120, 600, 3000ppm）] 銅欠損に伴うとみられる影響のみ* (Greenman D.L. et al. 1996) OECD/HPV プログラムによる評価結果* ※上記2試験において、投与群に対しては栄養学的に十分な銅を含有する飼料（穀類ベ- スの飼料又は精製飼料）を、コントロール群に対しては銅の量が不十分な精製飼料を与 えている。		
変異原性	Ames：陽性* ・陽性：TA100, TA1535. +/- S9mix 群. 用量不明. (Hedenstedt 1978) ・陽性：TA100, TA1535, TA92. - S9mix 群. 用量不明. 比活性値 479 rev./mg (TA92, - S9mix 群). (Warren et al 1981) 小核試験：陰性* ・マウス 130-600 mg/kg (GLP 試験) ・マウス 1500, 3000, 6000 mg/kg OECD/HPV プログラムによる評価結果* ※OECD/HPV プログラムの初期評価文書によると、in vivo 試験では変異原性はなく、遺 伝毒性を推定する根拠はないとされている。		
人健康 影響判 定根拠	OECD/HPV プログラムの初期評価によると、Ames 試験は陽性であり、90日間反復投与 毒性試験における NOAEL が 92 mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当。		
その他 の毒性 に 関 す	情報源：OECD/HPV プログラムによる初期評価文書 生殖毒性： [ウサギ]		

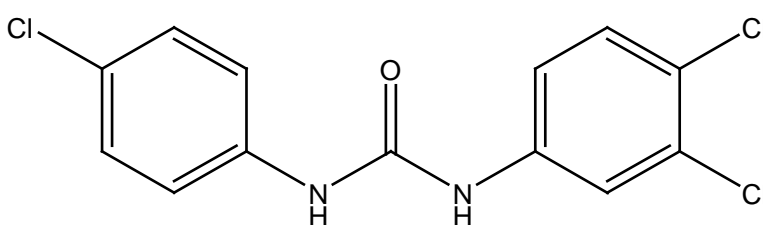
る情報	<p>母胎毒性濃度で肺毒性、催奇形性なし 構造類似化合物は生殖毒性なし 発生毒性： [ラット] 75, 375, 750mg/kg 母胎影響、胎児影響なし [750mg/kg で僅かな胎児体重増加のみ] [ラット] 830, 1670mg/kg NOEL：830mg/kg、1670mg/kg で異常胎児増加 [27/44 fetus (69.2%)] [ヒト] ウィルソン病治療薬として使用（当該化学物質の二塩化物） 女性患者（6 妊婦/4 人、400-800mg、3 回/日、120 ヶ月：流産、胎児異常なし、6 胎児は異常なく成長</p>				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H15	0/39	-	(8) μg/L
	底質				
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	<p>※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成16年実績） ※2 H16版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-407	CAS No.	89-63-4
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4-クロロ-2-ニトロアニリン 		
用途	3-407として中間物、添加剤（樹脂用、色素〔塗料、顔料〕用）等 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	1,000～10,000 t 未満 ^{*1}		
外観	橙色結晶性粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 1.0、2.2、4.6、10、22 mg/L 実測濃度 1.0、2.1、4.5、9.9、22 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 8.5 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 2.1 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.50、1.0、2.0、4.0、8.0 mg/L 実測濃度 0.53、1.0、2.0、4.2、8.3 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 4.2 mg/L		

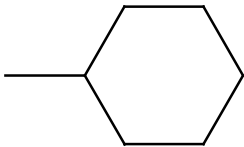
魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 4.6、6.8、10、15、22 mg/L 実測濃度 4.5、6.8、9.9、15、22 mg/L（算術平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=17 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.5 mg/L 群：遊泳異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 10/10、96h 10/10） 6.8 mg/L 群：遊泳異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 10/10、96h 10/10） 9.9 mg/L 群：遊泳異常（24h 7/10、48h 5/10、72h 4/10、96h 4/10） 横転（24h 3/10、48h 5/10） 横転かつ腹部膨満（72h 6/10、96h 6/10） 15 mg/L 群：遊泳異常（24h 4/8、48h 1/8、72h 1/8、96h 1/8） 横転（24h 4/8、48h 7/8、72h 3/8、96h 3/8） 横転かつ腹部膨満（72h 4/8、96h 4/8）</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hEC50=8.5 mg/L、72hNOEC=2.1 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=17 mg/L であるが、芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=4.2 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/24	—	(0.1~0.88) μg/L
	底質	S53	0/15	—	(0.02~0.0292) μg/g-dry
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	<p>※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成16年実績） ※2 S54版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	9-920	CAS No.	101-20-2
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3, 4, 4'-トリクロロジフェニル尿素 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	白色粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.0013、0.0028、0.0060、0.013、0.028、0.060、0.13 mg/L 実測濃度 0.0014、0.0036、0.0074、0.017、0.031、0.058、0.12 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) =0.046 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) =0.0014 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.0071、0.010、0.014、0.019、0.027、0.037 mg/L 実測濃度 0.0058、0.0080、0.011、0.015、0.021、0.028 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =0.016 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.033 mg/L (限度試験) 実測濃度 0.031 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 溶解限度で影響が認められなかった。		
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において溶解限度で影響が認められないが、藻類生長阻害試験において 72hEC50=0.046 mg/L、72hNOEC=0.0014 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.016 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。		

備考	試験用水溶解度： 藻類培地：0.13 mg/L、Elendt M4 medium：0.037 mg/L、脱塩素水道水：0.033 mg/L
----	--

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2230	CAS No.	108-87-2
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：メチルシクロヘキサン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.32、0.60、1.2、2.2、4.2、8.0 mg/L 実測濃度 0.014、0.030、0.067、0.13、0.21、0.35 mg/L（時間加重平均値） 助剤：アセトン 100 mg/L 72hEC50（実測値に基づく）=0.34 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.067 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.050、0.10、0.20、0.40、0.80 mg/L 実測濃度 0.037、0.080、0.15、0.30、0.60 mg/L（時間加重平均値） 助剤：アセトン 100 μ L/L 48hEC50（実測値に基づく）=0.33 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 2.0、3.6、6.3、11、20 mg/L 実測濃度 0.64、1.2、2.0、3.3、7.3 mg/L（時間加重平均値） 助剤：アセトン 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）=2.1 mg/L 以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.2 mg/L 群：遊泳異常（24h 1/10、48h 2/10、96h 3/9） 遊泳不能（72h 1/10） 2.0 mg/L 群：遊泳異常（24h 6/10、48h 7/10、72h 6/8、96h 4/7） 遊泳不能（96h 3/7）		

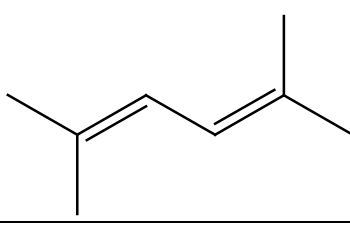
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hEC50=0.34 mg/L、72hNOEC=0.067 mg/L、ミジンコ急性 遊泳阻害試験において 48hEC50=0.33 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50 =2.1 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。
備考	試験用水溶解度： 藻類培地：11 mg/L、Elendt M4 medium：10 mg/L、脱塩素水道水：11 mg/L

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2232	CAS No.	111-78-4
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1, 5-シクロオクタジエン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	極薄い黄色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 1.0、3.2、10、32、100 %（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 0.39、0.93、3.5、12、44 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 72hEC50（実測値に基づく）=8.2 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.93 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間後に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.25、0.50、1.0、2.0、4.0 %（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 0.20、0.37、0.63、1.3、2.6 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=0.87 mg/L		

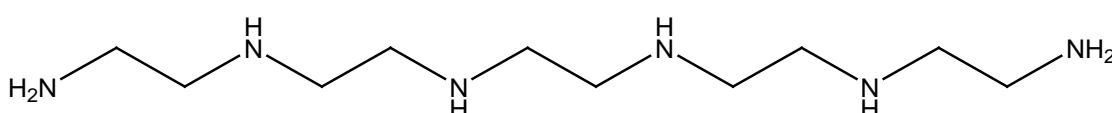
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 5.9、8.9、13、20、30 %（100 mg/L で調製した水性画分(WAF)） 実測濃度 3.5、5.0、6.9、11、18 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=13 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.5 mg/L 群：遊泳異常（72h 1/8、96h 1/8） 5.0 mg/L 群：遊泳異常（24h 2/8、48h 2/8、72h 4/8、96h 5/8） 6.9 mg/L 群：遊泳異常（24h 4/8、48h 5/8、72h 5/8、96h 5/8） 遊泳不能（72h 1/8、96h 1/8） 11 mg/L 群：遊泳異常（24h 4/8、48h 5/7、72h 5/7、96h 4/6） 遊泳異常かつ呼吸異常（24h 2/8） 遊泳不能（24h 1/8、48h 2/7、72h 2/7、96h 2/6）</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hEC50=8.2 mg/L、72hNOEC=0.93 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=13 mg/L であるが、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.87 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-28	CAS No.	764-13-6
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：2, 5-ジメチルヘキサ-2, 4-ジエン</p> 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：97.0%（不純物 ヒドロキノンモノメチルエーテル 含有率不明） 試験濃度：設定濃度 9.5、14、20、30 mg/L 実測濃度 1.7、2.5、3.5、4.7 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 72hEC50（実測値に基づく）>4.7 mg/L （2.5、3.5、4.7 mg/L 区でそれぞれ 9.2、13.7、38.7%の影響が認められた。） 72hNOEC（実測値に基づく）=1.7 mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（密閉系） 純度：97.0%（不純物 ヒドロキノンモノメチルエーテル 含有率不明） 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.90、1.6、2.9、5.5、9.1 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 48hEC50（実測値に基づく）=4.2 mg/L</p>		
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水 純度：97.0%（不純物 ヒドロキノンモノメチルエーテル 含有率不明） 試験濃度：設定濃度 1.0、1.5、2.2、3.2 mg/L 実測濃度 0.97、1.5、2.1、3.1 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）=2.6 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.5 mg/L 群：遊泳異常（24h 5/10、48h 6/10、72h 6/10、96h 6/10） 2.1 mg/L 群：遊泳異常（24h 10/10、48h 8/8、72h 8/8、96h 8/8）</p>		

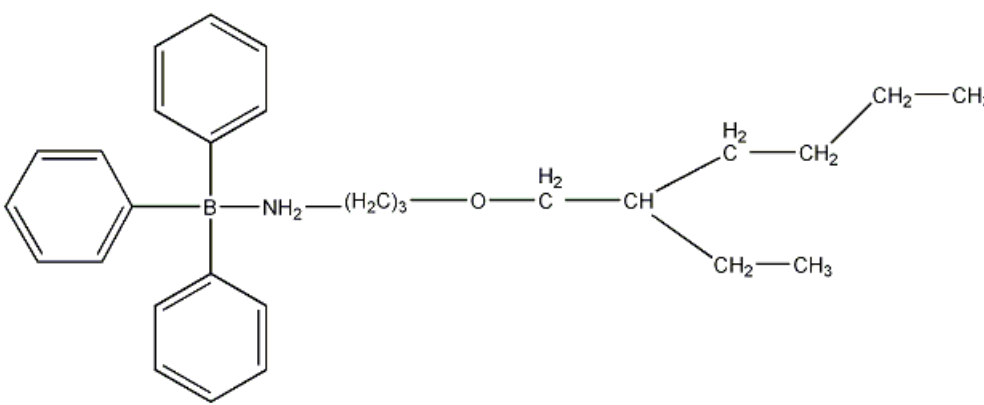
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hEC50>4.7 mg/L、72hNOEC=1.7 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=4.2 mg/L であるが、魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.6 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：32 mg/L (25℃)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-164	CAS No.	4067-16-7
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ペンタエチレンヘキサミン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	黄色粘性液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：83.5% 試験濃度：設定濃度 0.050、0.10、0.21、0.44、0.92、2.0 mg/L 実測濃度 0.043、0.086、0.19、0.41、0.80、1.9 mg/L (ばく露開始時) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 0.42 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.072 mg/L ①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：83.5% 試験濃度：設定濃度 1.5、2.9、5.5、10、20 mg/L (pH 調整あり) 実測濃度 1.3、2.8、4.4、10、21 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 8.0 mg/L ①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 純度：83.5% 試験濃度：設定濃度 20、42、89、190、400 mg/L (pH 調整あり) 実測濃度 20、44、87、190、390 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =210 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 44 mg/L 群：外観異常 (48h 1/10、72h 1/10、96h 2/10) 遊泳異常 (72h 3/10) 87 mg/L 群：外観異常 (48h 1/10) 遊泳異常 (72h 1/10) 190 mg/L 群：外観異常 (48h 2/10、72h 1/8、96h 1/8) 遊泳異常 (72h 1/8、96h 1/8)</p> <p>①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。</p>
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=210 mg/L であるが、藻類生長阻害試験において 72h EC50=0.42 mg/L、72hNOEC=0.072 mg/L であり、脂肪族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=8.0 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4392	CAS No.	250578-38-2
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成 14 年 2 月 14 日告示済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：[3-(2-エチルヘキシルオキシ)プロピルアミン]トリフェニルホウ素(Ⅲ) 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	白色固体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験 ※1	生物種：Desmodesmus subspicatus 試験法：OECD-TG201 (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 0.063、0.13、0.25、0.50、1.0 mg/L 実測濃度 0.067、0.14、0.27、0.56、1.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 0.39 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.27 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験 ※1	生物種：オオミジンコ Daphnia magna 試験法：OECD-TG202 (2004) 試験方式：止水式 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 1.0×10 ⁻⁵ 、1.8×10 ⁻⁵ 、3.2×10 ⁻⁵ 、5.6×10 ⁻⁵ 、1.0×10 ⁻⁴ 、1.8×10 ⁻⁴ 、 3.2×10 ⁻⁴ 、5.6×10 ⁻⁴ 、1.0×10 ⁻³ mg/L 実測濃度 7.5×10 ⁻⁶ 、1.4×10 ⁻⁵ 、2.4×10 ⁻⁵ 、4.2×10 ⁻⁵ 、7.5×10 ⁻⁵ 、1.4×10 ⁻⁴ 、 2.4×10 ⁻⁴ 、4.2×10 ⁻⁴ 、7.5×10 ⁻⁴ mg/L (推定値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 5.4×10 ⁻⁴ mg/L ①設定濃度が定量下限値を下回っているため、飽和溶液の実測濃度から各濃度区の被験物 質濃度を推定している。		

魚類急性 毒性試験 ※1	生物種：ニジマス <i>Oncorhynchus mykiss</i> 試験法：OECD-TG203 (1992) 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.5% 試験濃度：設定濃度 0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L 実測濃度 0.0059、0.017、0.066、0.23、0.65 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.15 mg/L
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.27 mg/L であるが、72hEC50=0.39 mg/L であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=5.4×10 ⁻⁴ mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50 =0.15 mg/L であることから第三種監視化学物質相当。
備考	※1 有害性情報の報告によって提出されたデータ。